

京都府立看護学校の機能拡充に関する基本方針（概要版）

1 趣 旨

- ・府立看護学校は、校舎の竣工後、40年以上が経過し、建物の老朽化が顕著なことに加え、昨今の複雑化・高度化した看護業務の技術水準に対応できる養成体制の整備が課題
- ・こうした中、府立看護学校が、北部地域の看護師の養成、定着、資質向上及び教育拠点として、より一層の役割を果たせるよう、機能拡充に向けた基本方針を策定

2 北部地域における看護職員・看護教育の現状

- ・50歳以上の看護職員の割合（令和2年末）は、府内平均（33.7％）に比べ、丹後地域は50.6％、中丹地域は38.4％であり、北部地域における看護職員の高齢化と、次の世代を担う看護職員の確保・定着が課題

	丹 後	中 丹	府 内 計
看護職員数	1,371人	3,267人	35,065人
50歳以上 (構成割合)	694人 (50.6%)	1,256人 (38.4%)	11,830人 (33.7%)

- ・府内の看護師等養成施設の卒業生（R4.3卒業）は1,544人で、その約9割が看護職員として就業
- ・看護師等養成施設の65％が京都市に集中する中、北部地域の養成施設（5施設）は、卒業生（看護師として就業）の約7割が北部地域に就業するなど、医療体制の維持のために果たす役割は大きい。

	卒業生	看護職員	府内就業 (北部地域)	進学 その他
府 内 計	1,544人	1,404人	918人 (92人)	140人
北部5校	141人	121人	102人 (82人)	20人

3 府立看護学校の現状

- (1) 課程 3年課程
- (2) 定員 120人（1学年40人）
- (3) 施設
 - ア 校舎 鉄筋コンクリート2階建・延床面積2,107㎡（S56.3竣工）
 - イ 学生寮 定員80人（4人/室）、風呂・トイレ共用（S57.3竣工）
- (4) 卒業生の状況 1,367人（府内病院 1,010人（うち北部地域 566人））※R5.3時点

4 機能拡充に係る基本的な考え方

(1) 府立看護学校のあり方検討

- ・「北部地域における医療看護及び看護教育体制に係る意見交換」及び「京都府立看護学校あり方懇話会」を開催し、看護等の関係者から意見を聴取

(2) 機能拡充に係る基本的な考え方

- ア 北部地域における質の高い看護師の養成
- イ 北部地域における看護職員定着の拠点機能
- ウ 地域との連携（地域に開かれた学校づくり）
- エ 学生の確保につながる魅力のある学校づくり

5 府立看護学校に必要な機能・施設

(1) 府立看護学校の役割

- ・慢性的に看護師不足が続く北部地域における看護人材の確保・養成
- ・看護職員の生涯にわたる教育拠点

(2) 機能拡充に係る基本方針

- ア 北部地域における質の高い看護師の養成
 - ・高度医療・地域医療に対応できる教育環境の充実
 - ・豊かな人間性・社会性及び看護の心を養う教育設備の整備
 - ・主体的に考え行動できる看護師の養成
- イ 北部地域における看護職員定着の拠点機能
 - ・卒後の教育・キャリア形成支援（生涯にわたる看護職員支援）
 - ・リカレント教育・潜在看護師の復職支援
- ウ 地域との連携（地域に開かれた学校づくり）
 - ・地域の医療福祉施設と連携した看護教育の充実や、地域に向けての健康教室の開催の実施等、地域に開かれた学校づくり
- エ 学生の確保につながる魅力のある学校づくり
 - ・快適な学生生活を送ることができる校舎及び学生寮の環境整備
 - ・学校の魅力発信（府内外への広報の充実・強化）